

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2008年 1月22日

1. 概要

実践団体名	東京都立三宅高等学校（担当者：前田哲良）	
連絡先	電話番号	04994-6-1136
プランタイトル	三宅島の環境保全と防災意識向上のための教育プラン	
目的	環境保全と防災対策の必要性を理解することで、自然の大切さを再認識する。また、島民の安全を支えている砂防ダム等の役割を知ること、島民の防災意識向上が期待できる。また緑化活動を通じて島民、島外関係者と交流を深め、島への理解を深めてもらう。本プラン実施を通して専門家とのネットワークを広げ、「学校設定科目 環境と防災」の平成20年度設置を実現する。	
プランの概略	<p>5月8日 火山ガスに対する避難訓練</p> <p>5月25日 専門家より三宅島雄山の火山活動再開を想定した防災講話</p> <p>6月9日 緑化プロジェクトで都内の高校生やNPOと協力した植樹活動実施</p> <p>7月18日 三宅島測候所稲葉所長による島内の火山活動観測施設紹介と説明 雄山火口の観測カメラによる火口内観察</p> <p>9月15日 日本災害情報学会と本校共催で「三宅島噴火災害から7年」シンポジウム開催</p> <p>10月3日 これまでの活動を中間報告会で発表</p> <p>10月20日 中間報告会の反省と今後の活動計画</p> <p>11月23日 緑化プロジェクト、都内の高校と協力し植樹活動実施</p> <p>12月19日 雄山中腹での被災箇所見学際企画、天候のため校内での火山学習</p> <p>2008年</p> <p>2月 島内小中高合同作品展で成果発表を行う（模型等を展示）</p> <p>2月 ワークショップにて一年間の活動成果報告</p>	
プランの対象	本校生徒全員（51名）及び教職員35名	
実施日時	通年	
実施場所	東京都立三宅高等学校 三宅島島内各所	
連携した団体	連携団体の有無	有り

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	主なメンバーの 役職・役割	校長（1名） 副校長（1名） 経営企画室長（1名） 教諭（5名）
プラン立案 に要した 日数・時間	立案期間	2007年1月～5月
	立案時間	10時間（1時間×10回）
	上記のうち 打ち合わせ時間	
プラン立案 で注意を 払った点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三宅島の噴火活動の歴史や噴火のメカニズム、災害への備えや災害時の避難行動の正しい知識を得て、島民に伝えていける力をつけることを目指した。 ・ 立地条件を考え、三宅島でシンポジウムを行う団体に協力を依頼することにより、費用を抑えたプランを考えた。 ・ 生徒が島外の大人と接する機会を多くつくり、自分たちの暮らす環境を客観的に捉え直し、災害の多い場所に暮らす高校生としての自覚をもてるように。 ・ 公の場所での発表活動の機会をつくり、高校生に対する期待を感じるとともに自信を得られるように考えた。 ・ 本校が今後、防災教育を続けていく上で連携できるネットワーク作りに結びつくような企画立案を行った。 	
プラン立案 で苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在も火山ガスの影響で校外での活動が制約されている現状で予定された日時に実施できるかどうか判断ができなかった。 ・ 生徒は避難中もいろんな団体に声をかけられたり、噴火災害の当事者としてマスコミやボランティア団体に対応してきたりしているため、多少アレルギーが残っている。そのため防災教育と銘打っても意欲的な参加をしてくるのか心配であった。 ・ 島内で行うシンポジウムの参加人数を予想したとき、島民約3000人の中からはたして何人の参加が期待できるのか心配された。（特に連休中は観光客の受け入れ時期であり、民宿関係者や海洋レジャー関係者は参加が無理、また、一般島民は連休を利用し、都内に上京したりする時期でもあった。） ・ 数校で企画された行事では各学校自体の行事との調整もあり、参加者の把握が難しい状態であった。緑化プロジェクト2回目が本校では2年生が修学旅行直後となった。 	

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

3. 実践にあたっての準備

準備に関わった方と人数・役割	団体内の スタッフ総人数	都立三宅高等学校職員 35名
	外部スタッフの 総人数	緑化プロジェクト 10名 シンポジウム 15名 火山学習 4名
	主なメンバーの 役職・役割	校長 (1名) 副校長 (1名) 経営企画室長 (1名) 教諭 (25名) 経営企画室スタッフ (7名)
準備に要した 日数・時間	準備期間	通年計画 2007年1月～5月 地域安全学会関係 4月～5月 緑化プロジェクト関係 4月～6月、10月～11月 シンポジウム関係 8月～9月 火山学習関係 5月～7月、10月～12月
	準備総時間	通年計画 8時間 (2時間×4回) 地域安全学会関係 4時間 緑化プロジェクト関係 4時間 (2時間×2) シンポジウム関係 6時間 火山学習関係 6時間
	上記の打ち合わせ回 数	通年計画 4回 地域安全学会関係 3回 (他メール15通) 緑化プロジェクト関係 2回 (他FAX12通) シンポジウム関係 4回 (他メール50通) 火山学習関係 6回 (他電話12回)
教育関係への 働きかけ	働きかけた 教育関係者・機関名	三宅村教育委員会 東京都教育委員会
	どのように 働きかけたか	各学校への案内 (ポスター配布など) 実施予定の連絡
	結果	シンポジウム参加者が予定よりも増えた。 参加できなかった方から資料の請求があった。 緑化プロジェクト関係では 東京都教育委員会より激励のメールが届いた。

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	三宅村商工会
	どのように働きかけたか	各関係者に協力依頼を行っていただいた。
	結果	商店へのポスター配布 商工会有志により豚汁を振舞っていただいた。(緑化プロ)
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	シンポジウム関係 三宅高校PTA役員より保護者へ連絡網等で案内を行う
	どのように働きかけたか	電話連絡網やポスターの配布
	結果	シンポジウム参加者の中に本校保護者が数名見られた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	緑化プロジェクト関係 ハンドマイク、クワ、スコップ、軍手、一輪車その他 シンポジウム関係 プロジェクター、大型スクリーン、パイプイス、長机など 火山学習関係 本校作成ワークシート、測候所作成観測機器配置図、ハンドマイク、島内案内用噴火前の各地の写真など
	入手先・入手方法	ほぼ、三宅高校の機材で対応
	機材教材の選定理由	特になし
参加者の募集	募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化プロジェクト 都立の農業系生徒に声をかけた。NPO 園芸アグリセンターを通じて一般募集を行った。 ・ シンポジウム 広報三宅への掲載、島内各地でのポスター、本校 HP による一般参加者の募集
	募集期間	
	参加予想人数	緑化プロジェクト 100人×2回 200人 シンポジウム関係は300人

2007 年度 防災教育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

	<p>実際の参加人数</p>	<p>緑化プロジェクト 1回目150人 2回目100人 シンポジウム関係は約150人</p> <p>火山学習は1回目1年地学授業参加者16名と職員7名計23名、2回目1年参加者14名と職員2名計16名</p>
	<p>募集方法の成功点</p>	<p>・ シンポジウム関係 島民が毎日利用するお店や各施設にポスターを貼ったことで一般の方々の参加があった。</p>
	<p>募集方法の失敗点</p>	
<p>準備で 苦労した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に島外から沢山の関係者が来島する企画では、交通手段がほぼ東海汽船のみになってしまうため、台風などの影響で欠航した場合すべてが実施できなくなってしまう恐れがあった。幸いそれぞれの行事（火山学習以外）は予定通り終わった。 ・ 工夫した点 日本災害情報学会合同シンポジウムでは船が欠航になったとき代替案として多摩地区にある大妻女子大で会場を用意していただいた。（この場合三宅高校は参加できないということ） 緑化プロジェクトの場合は中止にする予定であった。 火山学習は天候不良・火山ガスの影響が十分考えられるので、事前に代替案を準備し当日を迎えた。そのため、現地での観察はできなかったが後半に記しているように生徒の反応は十分であった。 	

2007 年度 防災教育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

4. タイムスケジュール

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2007 年 5 月	地域安全学会からの提案があり本校も防災教育チャレンジプランのスタートと位置づけ準備に入った。	地域安全学会事務局長との連絡を取り、日時調整と本校でのワークショップ担当者的人選を行った。 後日、上京し打ち合わせを行い、学校の状況説明とテーマ設定を行った。	5月25日小村氏によるワークショップ（全校生徒対象） 5月26日地域安全学会シンポジウムにおいて本校生徒会発表「10年後の三宅島で私たちは」・前日のワークショップの報告とこれまでの本校の取り組み
2007 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで毎年2回実施してきた流れにより、年間計画に有り。 ・7月の火山学習について対象学年の協力を依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬、都内より参加団体のスタッフ来島し、現地調査作業内容打ち合わせを行う。 ・1 学年の学期末行事予定変更確認、村役場へ高濃度立ち入り禁止地区への立ち入り許可願いの申請、企業課へ貸し切りバスの申し込み、当日のワークシートの作成等を行う 	6月9日緑化プロジェクト実施
2007 年 7 月	9月に日本災害情報学会との合同シンポジウムの計画案	職員会議にて概要の説明と引率協力者の依頼	7月18日校外での火山学習を実施 ただし、天候不良のため雄山中腹での観察を中止、代替案により別コース並びに三宅島測候所にて火山学習を行う
2007 年 8 月		シンポジウム実行委員と打ち合わせ 村役場に9月実施に向け協力依頼 ポスター等の準備	
2007 年 9 月		P T A 関係者にシンポジウムの案内及び参加の誘い 11月実施の緑化Pの下見	9月15日本校体育館にて日本災害情報学会合同シンポジウム実施

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2007年 10月	12月の火山学習について再度雄山中腹での現地学習会を提案	中間報告会のアドバイスを 受け、雄山中腹での現地火山 学習の日程と内容について 検討。再度学年、各教科担当 者に授業時間の譲受を依頼	10月3日中間報告 10月20日中間報告会反省と今後の 活動計画の話し合い実施（1学年）
2007年 11月	2月作品展へ向 け、火山学習用 説明立体模型の 作成決定	測候所・三宅島自然ふれあい センター関係者に12月火 山学習での協力依頼 村役場に立ち入り許可願 い及び貸し切りバスの申し込 み ワークシート作成とバス行 程表に合わせた仮称バスガ イド（生徒用）原稿作成	11月23日緑化プロジェクト実施
2007年 12月		立体模型材料購入及び再生 可能な物品の確保	12月19日火山学習会実施 今回も火山ガスの影響で雄山中腹での 観察中止、代替案により校内で火山学 習を行う
2008年 1月		立体模型作成作業 専門家からのアドバイスを 受け、作品の仕上げ調整	
2008年 2月			2月2・3日三宅村小中高合同作品展 最終報告会

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【A. 素材】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

タイトル	火山学習用立体模型			
実施日	2月2日・3日			
所要時間				
達成目標	作成過程における火山メカニズムの理解 完成後島民一般の方々へ三宅島の火山の構造をわかりやすく説明できる。			
生成物	アクリル板を利用した三宅島立体模型 地下の様子がわかるように配置することでマグマだまりの位置が予想できる			
進め方 (箇条書き)	1万2千分の1の地形図用意 アクリル板に地形や道路をマジックで写す ルーターで地形図の線を彫る その後彫った溝にラインを塗りこむ			

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>地図上の地域名や施設名をテプラ等で作成添付する</p> <p>過去の溶岩流の跡をシールに写しこみ、それぞれ色を変えて塗る</p> <p>地形図に合わせて溶岩流のシールを貼る</p>			
<p>ツール (特別に用意したもの)</p>	<p>アクリル板 1m 四方厚さ 5mm</p> <p>特殊ルーター</p>			
<p>場所</p>	<p>展示場所 三宅村コミュニティーセンター</p> <p>最終報告会展示会場</p>			

5. 実践の詳細【B. イベント】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

<p>タイトル</p>	三宅島の火山学習	三宅島の火山学習		
<p>実施日</p>	7月18日	12月19日		
<p>所要時間</p>	9:00~12:30	9:00~12:30		

**2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書**

達成目標	2000年噴火の被害状況を実際に観察する 専門家による解説で正確な知識を得る	2000年噴火の被害状況を実際に観察する 専門家による解説で正確な知識を得る		
生成物	当日、天候不良のためコース変更、雄山中腹は断念し三宅島東部昭和15年・37年噴火跡を観察し、三宅島測候所へ、そこで稲葉所長より、測候所の業務内容地震計の仕組み、現時点での噴火口の様子をライブカメラで説明していただいた。	再び、今回は火山ガスが観察予定場所周辺に流れてきたため、現地での学習会を中止、代替案として校内にて火山のメカニズムを説明その後実験、火山に関する映画上映。		
進め方 (箇条書き)	貸切バスにて学校より出発 島東部にある三七山(昭和37年噴火時のスコリア丘)にて昭和15年噴火跡と37年噴火跡の様子と当時の噴火時の避難の話を伝える。 2000年噴火による泥	教室にて火山のメカニズムを説明(PPT) ゼラチンを使ったマグマの陥入実験を行う 火山映画「ダンテズピーク」上映 映画及び火山学習についての感想考察を記入		

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>流で埋まってしまった神社跡を観察 測候所で詳しく説明を受ける。</p>			
<p>ツール (特別に用意したもの)</p>	<p>測候所内の地震計 外枠をはずし中の構造がわかるようにしていただいた 公式に情報提供されていない雄山火口のライブカメラ映像を見せていただいた。</p>	<p>マグマ陥入実験用のゼラチン、ラー油等</p>		
<p>場所</p>	<p>島東部（三七山周辺） 三宅島測候所</p>	<p>教室・視聴覚室</p>		

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

タイトル	昭和15年噴火の記録	防災教育チャレンジプラン		
実施日	2学期毎週木曜日	11月20日(火)		
所要時間	13:20~15:10	8:40~10:30		
達成目標	過去の噴火災害をまとめることで現在忘れ去られようとしている過去の経験を後世に残す。	中間報告会発表の反省・アドバイスを受けてこれから何をすべきか、みんなで考える。(対象1学年)		
生成物	島内の高齢者(昭和15年噴火経験者の記録誌作成 昭和15年の噴火の記録をまとめた書籍の文章の電子化	2007年度後半の防災教育チャレンジプランの活動の見直しと新計画案		
進め方 (箇条書き)	各地区に健在する昭和15年噴火経験者(特に80歳台)に噴火当時の様子を聞く。 噴火前の様子、噴火時の混乱、噴火後の避難の様子など。 聞き取り調査後、内容をまとめる。 並行して、過去の記録誌を	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告会の発表報告PPTを使って ・ 全員に中間報告会で指摘を受けた委員の方々のコメントを紹介 ・ それぞれの意見・指導を頂き、これからどんなことができるのか意見を出し合った。 		

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	読み返し、重要な項目をパソコン等にまとめる。電子化作業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次に避難当時小学校3年生だった頃を思い出し、意見を出し合いそこに答えはないか確認した。 後半に記す 		
ツール (特別に用意したもの)	島外に残っていた昭和15年噴火記録誌を購入 ICレコーダー デジタルカメラ	特になし		
場所	高齢者の各住宅 本校PC教室	1年生教室		

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 実施後

参加者への アンケート結果	<p>火山学習（7/18）</p> <p>本日の感想を書いて提出してください。</p> <p>A. 測候所の仕事、場所、働いている人など初めて知りました。 地震の時の対策も知りました。 実際に降ってきた石をさわって臭いまでかぎました。 測候所の人たちはけっこう大変な仕事をしているんだなと思いました。</p> <p>B. スコリアや軽石をさわらせてもらったが思ったより軽かったので、びっくりした。 緊急地震速報が始まるのがたのしみ。でも5秒は少なすぎだと思う。せめて30秒くらいほしい。0秒よりはいいけど。秋じゃなくてもうはじめればいいのに。新潟で地震が起こってしまった。</p> <p>C. 興味はでなかったけど、地震のことを調べることで助かる人もいるんだな~と思った。島が噴火して、火山灰が出ていろいろと埋まったんだな~と思った。今日は、天気が悪くて風が強くて寒かった。</p> <p>D. 話を聞いて、緊急地震速報はやく出来て欲しいと思った。 あちこちに行ってワークシートの問題やるの楽しかった。</p> <p>E. 今日は、天候の具合で雄山に行くことはできなかったけど、今まで知っていたこともあったけれど知らなかったことの知識が増えたと思います。 三七山ができたことは中学のころ教えてもらったけれど忘れていて思い出せる機会があって良かったと思います。 ガリは高校入り立ての授業でやったのをすっかり忘れていました。 御筈神社の歴史も初めて知ったし、富賀神社との関係があるのも知らなかったのでおもしろいなあと思います。 所長さんの話もためになりました。</p> <p>F. 三宅島一周したことで、いつもは通り過ぎてしまう所も詳しく見れたし、クイズ形式でおもしろかった。 測候所では、地震計の仕組みや噴火について知らないことが多かったので、新しく知ることが楽しかった。 噴火前の写真や最近取り付けられた噴火口カメラの画像を見ることができたので、昔と今の三宅島を比較することによって七年間の軌跡を知ることができ良かった。</p> <p>G. 三宅の色々な歴史や地形を知ることが出来て良かったです。 測候所で教えてもらったことは、地震と火山についてでした。とても分かりやすい説明で楽しく聞くことができました。 地震計はすごく細かくて扱いにくそうだなと思いました。</p>
------------------	---

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

日本で初めての火山専門解説担当者の方がいて、やっぱり三宅島はすごいな〜と実感しました。火山の島に住んでいるからには、災害に備えないといけないと思いました。

- H. 山に行けなかったのは残念だけど、普段行けないとこに行けて良かったです。地震のことも分かったしP波やS波のこともわかって感激しました。三七山に久々に行ったけどやっぱ景色キレイだと思う。ちょっと寒かったのが残念でした。
- I. 気象庁に行って緊急地震速報についての仕組みや活用法などを聞いて、10月1日から始まると聞き、命を守る良いことが聞けたと思った。地震が起こるメカニズムを地学の授業で学んだが、また新たな地震を詳しく知ることができた。めったに見れない三宅の火口の中の映像や現在の三宅のSO₂の放出量や噴火の危険性を知ることができた。三池に久しぶりに行って、緑が増えていてびっくりした。
- J. 緊急地震速報はとても大切な役割をしていることがわかった。サタドーの意味が地獄という意味だとは知らなかった。雄山にできたカルデラがあんなに深いとは思わなかった。過去に湯の浜付近に溶岩流が流れていたなんて知らなかった。
- K. 三七山のこと椎取神社のことなどなどいろいろなことを学びました。その中でも測候所のことについて（三宅島の気象情報など）教えてもらいました。実際に火口のようなすを見せてもらったり、地震について詳しく話を聞かせてもらったり、すごく勉強になりました。でも、やっぱり理数系は難しかったです。
- L. 今日火山学習をしてひょうたん山や三七山に行ってあらためて火山の跡を見ていろいろあったことがわかりました。測候所に行って地震についてのことと地震計を見ておもしろいと思った。地震についてS波とP波のことをよりわかりやすく教えていただき、やっぱり地震に備えて、いつ起きてもいいようにしておかなければということあらためて考えさせられました。
- M. 地震計の磁石がガチャガチャした。三七山におり周辺を観察した。椎取神社がドロに埋まっていて、火山の力がどうだか知ることができた。
- N. 今日は曇っていて雄山に行けなくて残念だった。けれど、かわりに測候所に行って火山弾や軽石をさわらせてもらった。火山弾は本当にラグビーボールぐらいの大きさでびっくりした。軽石は、持っていないような感じがした。すごく軽かった。あれは何gぐらいあるんだろうと思った。ワークシートの問題とか以外に知ってそうであまりわからなかった。火口カメラはすごくびっくりした。今現在の火口のガスの動きや火口の

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

大きさなどすごくわかった。自分たちでは行けないところをカメラで屋内で見れてすごく良かった。そのカメラや写真などで見ていて思ったことは、本当に2000年と比べて、緑がなくなり枯れ木ばかり、雄山の土はすごく乾燥しているように見え、山頂はなくなり、そのかわりに大きな穴ができていた。昔から住んでいる私にとって、すごくそれは衝撃を受けた。やっぱりガスの影響ってすごいなと思った。早くガスが止まって、緑が戻って欲しいと思った。

- O. 三宅の標高や火山ガス濃度、三宅島火山史などを学んだ。また、測候所に行きどんな仕事をしているのかを学んだ。特に印象に残ったのは、サタドー岬のサタドーとは「地獄」という意味だったこと。また、疑問に思ったのはなぜ噴火前は標高813.7mだったが現在は775mになったのはなぜかなあと考えた。
- P. いつも人体に感じない地震が何回も発生しているんだなと思った。赤場暁の噴火は天王祭のときだったのが死者が多くでなかった原因だと初めて知った。不幸中の幸いってかんじ。サタドー岬の「サタドー」って意味は地獄だったのにはビックリした。いつかは大きい地震が来ちゃうんだなと思いました。

火山学習 (12/19)

本日の感想を書いて提出してください。

- A. ゼラチンの中に入った油が平らになって広がったのは不思議だった。油の通った跡が残ってたのはおもしろかった。
- B. 映画こわかった。おばさんが・・・きつかった。手が震えた。手汗びっちょりかいていた。火山はあんなに激しくなるのかなと思った。こわいなと思った。
- C. 映画感動した。実験おもしろかった。説明がわかりやすかった。
- D. 映画がおもしろかった。やっぱり、山の変化はだれもわかんないんだなーと思った。それにそこに残りたいって人がいるなんてビックリした。水は鉄とか溶かす塩酸(?)にかわって鉄とか溶かすから、噴火したらいっぱい恐怖があるんだなーと思った。
- E. 地学実習行けなかったけど、教室で見たスライドや実験は楽しかったし、興味深かった。ビデオは火山についてのものだったので身近に感じた。
- F. ゼラチン、ごま油の実験わかりやすかった。映画もすごくよくできた話でよかった。自分も火山についてもっと勉強したくなった。
- G. 火山の映画は迫力があってすごかった。主人公以外の学者は火山を良く知っててもどこか甘く見てはいけないうって再確認しました。
- H. あの映画のようなことがもし三宅島で起こったら、誰も生き残れないよ

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

うな気がする。島の場合は対応が遅いため。

- I. 火山のことって難しい。火山の映画見た。噴火って怖いと思った。噴火でいろんな災害が起こるし、いろいろと考えさせられた映画だった。
- J. ビデオを見て、もしあんなふうに噴火したら、本当にパニックになりあんなふうに行動できないと思った。ちゃんと行動できるようにしたいですね。
- K. 映画を見て火山の恐ろしさ、火山予知などいろいろなことがわかった。事前に火山活動の状況や予知などを把握することも大切ということもわかった。また、噴火発生時にどのような対応をとらなければならないかもわかった。だから、映画を見て事前に火山の周期や状況を把握するのは重要ということがわかった。

できるだけ原文に近いまとめにしたので少しわかりづらい部分があります。

1 1月20日（火）防災教育チャレンジプラン（中間報告会の反省会）

- 1. 中間報告会での各先生方のアドバイスを1年生全員に報告。

その中で、「今回の防災教育チャレンジプランの取り組みを後輩達や島民に伝えてゆく手段を考えて欲しい」という部分あり、その対策をどうするか検討した。

- ① 火山学習（校外学習）の時、バスガイド役を自分たちでできないか？
- ② ワークシートの各チェックポイントの Q&A の部分を中学生や小学生にも分かるような表現にできないか。
- ③ 火山防災の勉強に利用できるような模型を作成できないか？
- ④ 過去の噴火体験談の記録を後世に残す方法は？
- ⑤ その他

- 2. 当時、小学校3年生だった自分たちの記憶を確認（そこに答えはないものか）2000年噴火時、急遽避難指示が出て都内に避難することになった経験を思い出し、困ったこと有り難かったことなどを確認する。

質問① 避難するとき一番困ったことは何か？

いきなり学校が替わったこと

報道陣がすごかったこと 2人

わからないことだらけだった

荷物を運ぶのが大変だった 3人

食事がたいへんだった

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

質問② 避難所（島内）で困ったことは何か？

お風呂に入れなかった 4人

ご飯がまずかった 4人（乾パンとご飯だけ、カップ麺だけだった）

人が多く熱気で暑かった 4人（寝る場所がなかった）

質問③ 避難先（都内・他）で困ったことは何か？

知らない人ばかりで慣れなくて困った

道を覚えるのが大変だった 2人

避難先の方言に困った

敬語が使えなくて困った

質問④ 避難したとき一番有り難かったのは何か？

いろんな無料券をもらったこと 2人

避難した寮で縁日をしていただいたのが、楽しかった

友達ができた（島の友達も都内の友達も） 4人

応援のメッセージや励ましの言葉

3. 高校生としての「我が家の防災チェック」（三宅村防災マニュアルより）

三宅島の火山活動の現状は把握できている

二酸化硫黄が身体に与える影響とリスクを知っている

立ち入り規制区域の種別と内容、場所を確認できた

高濃度地区の立ち入り許可等の内容と届出方法等を理解している

我が家がどの発令エリアにあるかを知っている

どういうときに火山ガス警報・注意報が発令されるか知っている

火山ガス警報を聞く3種類の方法を確認している

「火山ガス防災十か条」を守っている

ガスマスクの使用方法が分かっており、外出時常に携帯している

非常用持ち出し品を持ち出しやすいところに常備している

小型脱硫装置の使い方と注意点が分かっている

火山ガス警報発令時の対応行動を理解している

伊豆避難施設に避難する方法を知っている

火山ガスに対して疑問が生じた時にどこに聞けばいいか知っている

家族の中の高感受性者と要援護者を確認して対応方法を話合った

避難時の一時集合場所を確認しておき、実際に歩いて確かめておく

家族が離ればなれになった場合の連絡方法や集合場所を決めておく

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>我が家の防災メモに必要事項を書き込んだ</p> <p>テレビ・家具類には、横ずれ・転倒落下防止処置を行う 寝る場所には、できるだけ家具などは置かないようにする 観音開き戸には、中の物が飛び出さないよう留め金をつける 窓ガラスや食器棚等のガラス戸には飛散防止フィルムなどを貼る 高い場所に物を置かない 消火器を準備し、防災訓練に参加して使い方にも慣れておく 避難に備えて、靴や厚手のスリッパを寝室に備えておく 簡単な応急手当に関する知識・技術を身につけておく 避難路を確保するため出入り口や通路に物を置かない 家にブロック塀がある場合は、安全性を確認しておく 石油タンクやガスボンベは倒れないように補強し、周囲に物を置かない ベランダの手すりには鉢植えなど、落下する危険のあるものを置かない 町内会や隣近所で、協力体制について話し合っておく</p> <p>以上の内容を点検した。</p>	
成果として 得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火山学習を行ったことで三宅島の歴史や噴火時の様子を再確認できた。実際にほとんどの生徒は2000年噴火を体験しているが、避難することに集中していて火山のメカニズムを知るという余裕がなかったと思われる。改めて身近な雄山の火山活動を題材に火山学習を行い十分な反応があった。 ・ 生徒会ではシンポジウムなどをきっかけに全国に三宅高校の活動を知ってもらうことができた。 	
成果物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三宅島素材研究（学校設定科目）では溶岩を染料としてTシャツを作った。 ・ 同じく溶岩を釉薬として陶器を製作したりした。 ・ 美術工芸部はTシャツ・陶器を文化祭で販売し好評だった。 ・ 1年地学では2月の作品展に三宅島火山活動説明用の立体地形図を展示。 ・ 緑化プロジェクトでは植樹した樹木が少しずつ成長している。 	
広報方法	広報した先	新聞各社
	広報の方法	FAX、電話、本校及び各学会のホームページに掲載

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	取材に来たマスコミ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域安全学会シンポジウム 毎日放送 ・ 日本災害情報学会合同シンポジウム 朝日新聞、東京七島新聞、毎日新聞
	広報された内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域安全学会シンポジウムでの生徒の発表及び発表後の感想など（ラジオ放送） ・ 日本災害情報学会合同シンポジウムでの生徒の発表及び生徒作品の紹介など（朝日新聞）
	成功点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 噴火から7年が経ってしまったことで、忘れ去られようとしている三宅島の現状を改めて島外の人に伝えることができた。
	失敗点	各専門分野のスペシャリストが参加された島内でのシンポジウムであったが、観光客が多い時期だったので民宿経営者等の参加者が少なかった。
全体の感想と反省・課題	<p>この一年防災教育チャレンジプランの取り組みを行ってきたが、活動の半分以上はこれまで行って来た事で、職員も協力的であった。しかし、新たに取組む内容については二の足を踏む傾向があり、学校全体として行動することが難しい状況であった。しかし、生徒の反応はそれぞれ前向きな反応があり、本年度取り組んできた成果は十分にあった。</p> <p>今後は活動計画を早めに示し、職員の協力体制を整えつつ本番に臨みたい。</p>	
今後の予定	来年度以降の取り組み方	<p>学校設定科目「環境と防災科」の設定はできなかったが、理科の年間行事の中に校外学習を盛り込むことができた。1・2学期の2回（海洋生物・火山学習）実施予定でこの行事をきっかけに三宅島の自然や噴火災害の歴史について学ぶことが可能である。また、今後も緑化プロジェクトは継続し、三宅島山頂付近に樹木が広がることも近い将来期待できる。</p>
	ぜひ実施してみたい取り組み	<p>世界的にも注目すべき火山活動が続いている三宅島を日本のみならず、世界にも伝えるため三宅島の現状を情報発信する。火山防災だけでなく、この火山活動を三宅島の観光資源としても活用する取り組みを考えたい。</p> <p>例えば、各危険場所、観光スポットでの案内板など現在は日本語のみで表示されているが、英語、ハングル語、中国語など併記し、外国の観光客にも安心して島内を巡ることができるようにする。</p>

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

自由記述

残念ながら「学校設定科目 環境と防災」を平成20年度に設置することはできなかった。

原因としては、生徒数が51人その中で2・3年生が35人、理科の本校独自の学校設定科目「三宅島自然研究」は大きな位置づけであり、この他に「環境と防災」の科目を追加することには抵抗があった。しかし、「三宅島自然研究」の授業内容には地学分野の要素が多く含まれており、環境をはじめ防災に結びつくような活動は十分可能である。また、平成20年度の1年生「理科総合A」や「地学I」の授業の一環として、1学期末と2学期末に校外学習を実施することになった。その校外学習では7月に海洋関係の実習、12月に火山関係の実習を行う予定である。また、総合的な学習の時間のテーマ設定に火山防災（噴火の歴史など）に関連する内容も入れる予定である。

2008年1月7日朝も久しぶりに小噴火があり、島東部では降灰があった。（前回の小噴火は2006年8月23日）噴火後の火山ガスは前回と同じく濃度が高くなるので注意が必要である。まだまだ、気が抜けない現状が三宅島にあるので、火山のメカニズムは少しでも多くの人に知ってもらわなくてはならない。

今回の防災教育チャレンジプランの取り組みで生徒は大きく成長しました。島内にいると、大勢の人の前で話すこと、専門家の話を聞くことなどなかなかできないのが現状です。このようなきっかけを作っていただいた関係者の皆様には本当に感謝いたします。特に地域安全学会の関係者の方々、日本災害情報学会の関係者の方々、三宅島測候所のスタッフの皆様、三宅島自然ふれあいセンターのスタッフの皆様、三宅村企業課・災害復興政策室の皆様、商工会のスタッフの皆様、都立園芸高校他緑化プロジェクト関係者の方々その他ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。